

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 32

2019年12月17日（火）発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所:〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

玉川上水緑道を歩きながら思うこと

白梅学園大学特任教授

白梅学園清修中高一貫部校長

山田 裕

私には西武国分寺線鷹の台の駅から白梅学園までの通勤途中の楽しみがあります。四季の移ろいが色濃く感じられる玉川上水の緑道を歩くことです。このあたりの上水は関東ローム層が露出した切り立った壁を見ることができ昔からの面影を残しています。玉川上水からの分水（小川用水）が脇を流れているのを見ると、十七世紀江戸時代にこの用水の水を引いて、このあたりの土地を開墾された先人の様々な願いや苦勞がしのべられます。

私は白梅学園大学で四年目、今年から白梅学園清修中高一貫部の校長を兼務しております。私立学校に共通することではありますが、生徒の居住地が広範囲で、地域の一員としての自覚や愛情を教育の場に取り入れにくいところがあります。通学路の脇を流れる玉川上水の歴史的な役割、なぜ国の史跡となっているかなど、授業に取り入れていくようにしています。一方で、本校が地域においても認知度が低いことです。近隣の小学校の先生方や保護者の皆さんも、清修中学校があることをご存知ない方が多くいらっしゃいます。

私立ではあっても、地域の学校としての役割を果たしたい思いから、本年度近隣の小学生に呼びかけ、週一度、本校の教育機能を生かした英語教室を始めています。また、小平市教育委員会が主催する中学校生徒意見発表会、人権作文コンクールなどには、生徒たちに積極的に参加するよう働

きかけています。

今年の十一月、環境問題への意識を高めたいという本校の高校生のサークルが結成されました。その活動内容に、玉川上水のごみ拾い活動があり、地球規模の環境問題はまず自分たちの学ぶ学校周辺の生活環境から考えるという取組を応援してまいります。



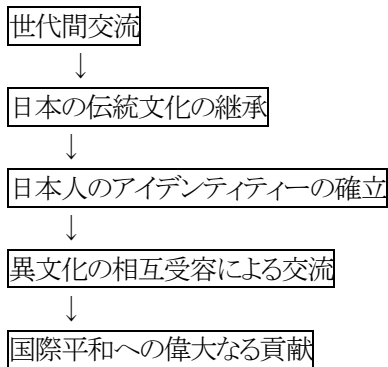
小平西地区ネットワークって何？

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース（団体の担当者でも可）の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？

世代間交流学会 基調講演 感想文

杉浦廣道

白梅学園の西ネットの活動に参加させていただくようになって草野先生にお目にかかる機会に恵まれました。先生は『世代間交流学』なる学問を研究されておられることを知りました。この学問が何であるかはわたくしには分かる由もありませんでした。運良く先生から課題が与えられました。世代間交流に関する学生さんの体験レポートの全てを読むという課題でした。素晴らしいものもあれば、正直に申せば「手を抜いているな」というものもありました。大量のレポートを読むことによってこの学問の狙いはどこにあるかが臆気ながら分かったような気がしました。わたくしの我流の勝手な解釈ですが、以下のように理解しました。



このように理解したので、この学問に大いに興味を持ちました。

今年の『世代間交流学会』がここ白梅学園で開催されましたので内田伸子先生の基調講演を拝聴する機会に恵まれました。

情緒豊かで且つ創造性豊かな人間を育て上げるのが教育の目的であるとの事。そのためには幼児期に極力多くの「読み聴かせ」をして読書の魅力にとり憑かれた子供にすることが大切でとのこと。この具体的方法は「盆栽」を育てるようにすることであるとの事。「盆栽」の代表は「松」と「菊」です。

「松」とは『待つ』こと。【自ら考え行動できるようになるまで『待つ』こと】

「菊」とは『聴く』こと。【種々な発言・疑問に対して真剣に「聴く」こと】

このウィットに富んだ表現はとても理解し易いものです。

従来からの”偏差値重視”の教育は来るべき『AI の時代』に対応する人間を育てるには限界が来ていると思いますので、内田先生のご指摘は正に正鵠を得たものであると思います。【知っているか否か】はさほど問題ではなくて、【どのように考えるか】こそが問題になってくるものと思われます。可能な限り多くの知識を吸収し、瞬時にそれを引き出して活用することが知識産業と言われてきました。そのようなことは『AI』に取って代わられるようです。

また、小学生からの英語教育に関しての詳細な実証分析を示して下さいました。その結論は『百害あって一利無し』と主張されておられる藤原正彦氏(作家。数学者)と同じようです。学者の研究結果を文科省のお役人もよく理解しているようです。然し経済界の強い圧力によって小学校からの英語教育が実施されるように至ったとのこと。学者の研究結果を尊重しようとする経済界の姿勢は極めて残念に思います。

母国語の言語体系が確立されてから他の言語(英語)を学ぶことは頭脳の発達に非常に良い刺激を与えるようです。その意味では日本語の言語体系が確立される前に”ペチャクチャ喋る”英語教育を施すのは全く意味のないようなことに思えます。時期を早めただけの早期教育とか習い事の多くは効果が薄いという実証研究を示していただきました。親の所得格差によって通う塾とか習い事の数の差が子供の能力格差を生むということがまことしやかに主張されていますが、先生の研究によって虚偽であることが実証されました。

70歳を過ぎ、子供が成人してしまったわたくしが内田先生の講義を拝聴しても最早”手遅れ”なのではないかとも思えました。

生涯発達と世代間交流

～子育て・親育ち・地域の絆～

ですから決して”手遅れ”ということではなくて、生涯発達するということを感じてこの西地区で地域の絆を大切に世代間交流を継続していく勇気をいただきました。

マジキット(遊び)

こだいら自由遊びの会 くまじいにと坂手滋

9月21日(土)に小平市第十二小学校にて「楽縁祭」が行われ、第2ブロック「西の風」として出展しました。こだいら自由遊びの会の出し物のひとつとしてマジキット(遊び)を行いました。



マジキット(遊び)は、子どもたちが扱いやすい大きさで周りに連結用の小穴を配列した(縦横の長さ2対1の)長方形の板を、繋ぎたい板どうしの小穴に短い両面マジックテープ通して連結して作りたいものを組み立て、組み立て

たもので遊び、思いっくまに自由に組み立て、組み換えて遊ぶことができる「近実物大構造物自由組み立て遊具」です。発想後間もない2009年夏頃から、段ボール板の試作品を作り「こだいら自由遊びの会」の子供たち等に実際に遊んでもらってきました。



楽縁祭では、マジキット遊びのように、グループで遊べ、簡単に、自由自在に組み立て遊べる性能を持った大型の組立遊具は他にありません。

私は、夢中になってマジキット

遊びに興じる子どもたちを見るたびごとに、この遊びを広くあまねく、日本中、世界中の子どもたちに届けたいとの思いを募らせてきました。幼少期に誰でも遊ぶ砂場遊びや積木遊び等のような基礎的、普遍的な遊びとして。そのため、現在、元気あふれる子どもたちが日常的に遊べるように、強化段ボール板、合成樹脂類の板等を使用した製品へと発展させる取り組みをしています。

次回には、新しいマジキットで思う存分遊んで貰いたいと考えています。

ほっとスペースきよかにおじゃまして

目白大学大学院看護学研究科 修士課程2年

谷口友子

私は、世代間交流について子育て支援の視点で研究をしたいと考え、インターネットや新聞等で親子と他の世代の方が一緒に参加できる場所を探していました。しかし、なかなか見つけることができませんでした。そのような中、10月6日に行われた日本世代間交流学会第10回大会に参加し、まちづくりワークショップ会場で、ほっとスペースきよかの石川さん、ほっとスペース上水の家の権田さんと出会うことができました。そのご縁をきっかけに何度か、ほっとスペースきよかにお邪魔させて頂

いております。

埼玉県内に住む私は、こちらの土地とは縁もゆかりもないのですが、笑顔で快く受け入れてくださり本当に感謝しています。きよかでは、おいしい昼食を頂き、お菓子やお茶、コーヒーまで出て、普段バタバタ暮らしている者にとっては、とても贅沢な時間を過ごすことができます。また、その後に行われる講座や、抹茶を楽しむ時間も他の参加者の方と一緒に参加させていただきました。

私は、3年前まで北海道の田舎町で暮らしており、今

振り返ってみると、子育てや暮らしをご近所さんに色々な面で助けてもらっていたと感じます。都内で出会ったお母様が1人で子育てを頑張っている様子を聞く機会があり、都会に暮らす親子はどのように人と関わり、子育てをしているのだろうかという疑問を持ったことが「世代間交流」のテーマをみつけるきっかけになりました。

多くの人が暮らす地域であっても、色々な人がいる中で子どもが育ち、親も安心して暮らしていけるヒントが、きよかには隠されているのではないかと考えています。まだまだ、研究は道半ばですが、出会った人とのご縁を大切に、少しでも頂いたものを還元できるように、今後もじっくり学んでいきたいと考えています。

小川一丁目児童館について

中島美穂(横浜市在住保育士)

1~2か月に一度の頻度で小平市小川一丁目での勉強会に参加することがある私は、勉強会の間に小学生の娘を児童館に連れていくのがお決まりになっている。もう2年以上、児童館にお世話になっているので、少し児童館について紹介したい。

児童館はこどもを預かってくれる場所ではないが、子どもが自分の好きなことをして過ごせる場所である。(保護者も一緒にいることは可能。)

隣の大学で保育を学ぶ学生さんがいらっしやることもあり、地域の中の児童館という印象を持った。受付に名前や学年、小学校名を記入したら、さて、どんな遊びをしようかな?と館内を見渡す。受付の横の大きなホワイトボードには、おもちゃの写真と番号があり、使いたいおもちゃの番号を受付に伝えて貸してもらおう仕組みになっている。

入口を入って左側には乳幼児コーナーがあり、奥には授乳室もある。このスペースは小学生以上は基本手に入らないので、安心して乳幼児が遊べるようにな

っている。

受付正面のオープンスペースには、円卓が何台もあり、受付で借りたおもちゃをつかったり、塗り絵をしたり(色鉛筆など貸してもらえ)、奥の本棚から持ってきた本を読んだりすることができる。娘は受付のお姉さんと一緒にゲームで遊んだりしていた。

コミュニティーコーナーにはパソコン3台あり、こちらも使用したい場合は受付に申し出る(1回あたりの利用時間制限あり)。

一番奥には、工作室と遊戯室が配置されている。遊戯室にはバスケのゴールがあり、受付で遊戯室の使用を依頼すれば、空いている時間を教えてもらえ、ボールも借りることができる。本棚には小学生に人気のシリーズ児童書や、絵本、図鑑、漫画まで幅広く置いてあり、遊ぶだけではなく、本好きも楽しめると思う。

一度や二度行っただけでは遊び足りないし、新しいおもちゃが入ることもあり、娘にとっては行くのが楽しみな場所になっている。

大学の街小平市、その一端をミノヒト文字に

—武蔵野美大の巻—

金田利子

小平市には沢山の大学・大学校があります。特に西ネット圏内には、武蔵野美術大学、朝鮮大学校、白梅学園大・短期大学、職業能力開発大学校の4校があります。府中街道を隔てただけで、西ネットからは外れますがすぐそばに津田塾大学もあります。大学街に住む市民の立場で、それぞれの大学の賛歌を出していこうと

思います。

今回は武蔵野美大の巻です。「むさび」に人の集まる風物詩。芸大際、大きな画板を持つ入試、まるで個展の集まった所のような卒業展、夏休みにもこれまたすごい。通信生世代を超えて(汗流しつつ)続々とくる。この一連の情景が私は好きです。

—芸術祭を垣間見て6首—

- ◆万を超す人のあつまる芸大祭 この賑わいは地域の宝
 - ◆学生が思いおもいに企画する 自由の香りに酔いしれる客
 - ◆学生の個展の場にさえなるくらい 学生主体は大学の知恵
 - ◆奇抜人奇妙に見える若者も 顔はきりりとひきしまりおる
 - ◆朝大と架け橋作った仲間たち 今年も発展形替えつつ
 - ◆その真価祭りの後が物語る 早朝からの片付け見事
(一番のバスを待ちつつ眺めていました。)

初めて白梅学園を訪ねて

朝鮮大学校 教育学部

保育科 韓昌道

アンニョンハシムニカ。



私は現在、教育学部保育科の1年生を担任している韓昌道(ハン・チャンド)と申します。専門は昆虫分類学で、カミキリムシ科昆虫の分類を主な研究テーマにしなが、朝鮮半島の昆虫相の解明や玉川上水域の昆虫相の解明にも取り組んでいます。そんな私は、朝鮮大学校内の様々な部署を「虫のように」転々としながら、四年間在籍していた体育学部を離れ、2019年度から教育学部保育科に転属になりました。学生時代は教育学部教育学科で理科教育を専攻して学んだ私ですが、まさか保育科に転属になるとは夢にも思いませんでした。

しかし、現在、私自身が3児(3, 5, 6歳)の父であり、朝食の準備や保育園の送り迎え、掃除に風呂入れなどの家事や育児を毎日行っていることから、特に育児の大変さに圧倒されているのですが、その大変さを感じれば感じるほどに保育園の先生の凄さに脱帽していました(全寮制の大学の教員をしておりますが、幼児には敵いません)。

そんな真っ只中での保育科の転属だったため、幼児

の健全な育成の大変さや困難さを身をもって家庭内で体験していることもあり、これに携わる職業に就くであろう保育科の学生に関わる大切さを自然と深く感じることができました。大学の教員10年目ではありますが、新任教師のような新鮮さを感じながら、毎日保育科の学生と切磋琢磨する日々を大学で過ごしております。その過程で先生方のご尽力のもとに白梅学園との交流があることを知り、この度、当日の遊び広場を見学させていただきました。

朝鮮大学校の学生は他大学の学生と交流することに関しては不慣れな部分もあったと思いますが、その分、素晴らしい体験をさせていただいたと感じております。

また、何よりも国籍や学び舎が異なろうとも同じ地域に属する大学として、また幼児教育という同じ志を持つ者同士でこの会の準備を行い、少しでも交流ができたことこそが彼女たちの大きな財産になったのではないかなと思います。白梅学園と朝鮮大学校との交流には長い歴史があると聞きました。

私共を取り巻く情勢といたしましては、朝鮮学校幼稚園の幼児教育無償化の適用外問題など複雑な課題と問題が山積していますが、そのような状況下だからこそ自然な交流や共有が大切だと思います。

以前、白梅幼稚園の園児を対象に昆虫のお話をさせていただきましたが、新たに転属した教員として、自身ができることを一つでも多く大学の垣根を越えて学生のために行えれば幸いです。この度は大変貴重な経験を積む場を提供していただき誠にありがとうございました。これからもよろしくお願いたします。

白梅子育て広場 11月あそぼうかい報告

白梅学園大学 森田咲(子ども学科1年)

11月30日の土曜日に、白梅学園大学構内にて、『11月あそぼうかい 秋の運動会！！』を開催しました。ご来場くださった皆様ありがとうございました。今回は「1年間の集大成として全員が責任をもって準備に取り組み、当日も全力でやりきる」ことを目標に、地域交流の場にもなれるような企画を考えました。



入口から、運動会や秋を彷彿とさせる装飾が彩り、玉入れ・借り物競争・もぐらたたきの三種目を制覇すると本格的な賞状がもらえるコーナーや、豪華なメダルを作ることができるコーナーを準備しました。授乳スペースや午睡スペース、落ち着いた雰囲気の中ゆったりと過ごせる空間も用意



しました。子どもや福祉について日々学んでいる学生の、



豊かなアイデアが詰め込まれた、運動会らしさを味わえるようなあそぼうかいになり、多くの参加者さんに楽しんでもただけました。なにより、子どもたちと学生の笑顔が輝いていたのが印象的でした。また、今回のあそぼうかいでは、交流が毎年恒例となっている朝鮮大学の1年生9名も加わり、ともに準備、当日運営に取り組みました。準備の中で、お互いの生活や学校のことなど、違いを知ることができました。

12月14日の土曜日に、当大学J棟2階にて『今、必要とされる支援とは』というテーマで「白梅子育て広場シンポジウム」を行います。今年度最後の企画となり、私たちが行ってきた1年間の活動を報告し、今後の課題について話し合います。第1部では、学生が、今年度の活動を通して学んだことや考えたことを発表します。そして、第2部では、白梅学園大学短期大学の先生方をパネリストとして迎え、地域の皆様とともに、『社会問題から考える子どもの立場と支援』について考えます。

今後も、地域の中の“子育て広場”としてあるべき姿を考えながら活動していこうと考えております。次回の「あそぼうかい&世代間交流広場」は2020年4月に開催予定ですので、ぜひ楽しみにしていただけたらと思います。ご来場お待ちしております。

「ほっとスペースさつき」バザーを開催

— 関谷農園さんに感謝 —

渡辺 穂積

秋も深まった11月10日(日)に恒例のミニバザーを開催しました。



朝10時から開催したミニバザーは今回で15回目と回を重ねましたが、当日も青空の下で多くの皆さんのご厚意によ



る沢山の提供品(関谷農園の新鮮野菜をはじめ男性・女性の衣類関係、子供服、食器類、バック類、おもちゃ等々)

を展示して盛大に実施することが出来ました。特に野菜類は奥様方の目玉商品として人気があり、お互いに料理方法(レシピの交換)等で盛り上がり売れ行きも上々でした。来訪者も老若男女や子供さん等大勢の方々に来ていただきました。売り上げもさることながら、「ほっとスペースさつき」のモットーである出会いの場でのコミュニケーションを大切にしてお茶や甘酒をふるまいながら来訪者の皆さんと売り手(スタッフ)が話を弾ませ楽しい時間を過ごしていただきました。

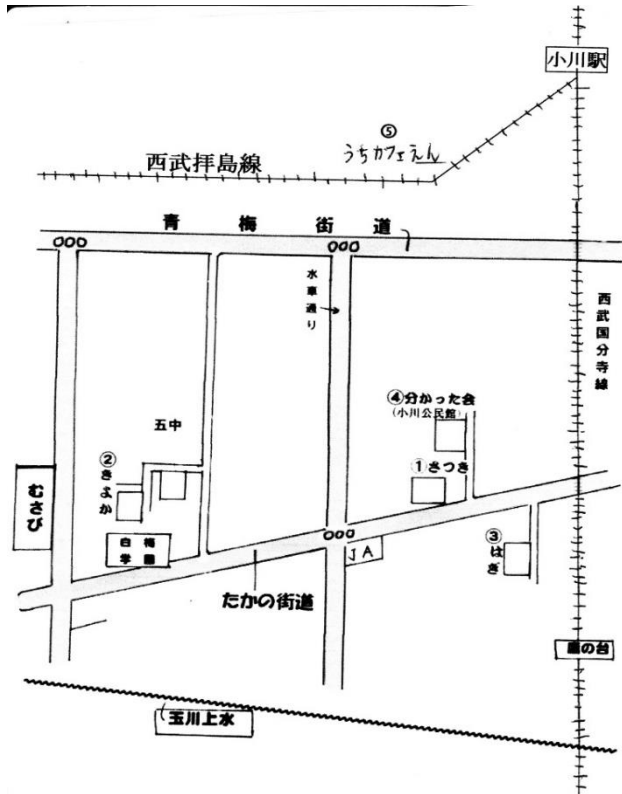


さつきを始めた当初のミニバザーはPR活動の一環でしたが、今では多くの皆さんに知っていただき地域の居場所としてそれなりに根付いて来たのではないかと自負しているところです。これからもバザーだけでなく地域の居場所として多くの皆さんに活用していただき楽しい日々を過ごしていただけたら幸いです。

皆さん、コミュニティ・サロン(下の①～⑤)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?

お待ちしております! (右の地図を参照)

- ① ほっとスペースさつき
毎週火曜と木曜 10:00~16:00
問い合わせ: 渡辺 穂積
TEL: 042-344-7412
- ② ほっとスペースきよか
毎週月曜 11:30~15:30
問い合わせ: 石川 貞子
TEL: 090-7732-2089
- ③ アットホームはぎ
毎月 7, 17, 27 日: 14:00~17:00
問い合わせ: 萩谷 洋子: 042-342-1738
- ④ 「分かった会」小中無料学習教室
毎週木曜日 18:00~20:00 (小川公民館)
問い合わせ: 奈良 勝行 (講師募集中!)
TEL: 090-4435-4306
- ⑤ 子育てサロン「うちかフェス」(小川西町)
毎週月・水 13:00~15:30分
問い合わせ: 伊藤絹代
TEL: 090-5441-6219



イベントの予定

- 02月14日 (金) 居場所連絡会
- 02月27日 (木) たいよう福祉センター地域懇談会

西ネットの今後の予定

- 大学世話人会: 01月14日 (火) 18時~
- 地域世話人会: 02月04日 (火) 18時~
- 大学世話人会: 02月18日 (火) 18時~
- 懇談会: 03月07日 (土) 18時~
- 大学世話人会: 03月17日 (火) 18時~

西ネットの世

ブロック	地域世話人	学内世話人
1	西 克彦・丸山安三	瀧口 優・杉本豊和 福丸由佳・山路憲夫
2	足立隆子・芳井正彦・ 今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	石川貞子・大内智恵子・ 久保田進・穂積健児・ 杉浦博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 西方規恵・牧野晶哲
4	桜田 誠・萩谷洋子 福井正徳・細江卓朗 渡辺穂積	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行・長谷川俊雄

お願い: この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当(奈良まで)お申し出下さい。

投稿募集: このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください(奈良勝行)。

メール: ever.onward.nara@xd5.sonet.ne.jp

編集後記: 「小平西のきずな」も今回で32号を迎えます。3ヶ月に1号の発行なので、8年この小平西地域の動きを伝えてきました。もちろんここに載せられなかったものも沢山あるので、それらを含めてもっと地域の顔が繋がっていくことを期待しています(瀧口)。